仏國訴訟法會議筆記 第一卷

寫本
訴訟法會議筆記
第五百七十四號
第二十卷
四冊ノ內

第五號
第弐架
八

司法省
第四八號
圖書文庫贈寄

校簽一

訴訟法會議筆記

自第一
至第十

司法省

B500
B 3
1 2

訴訟法會議筆記

七年四月十日

司法省

凡例

欄上○アルモノハ訴訟法原文

第二章　下等裁判所ニ呼出ス事

第五十九條　人權ノ事ニ付テハ被告人其住所ノ裁判所ニ呼出サルヘシ可シ若シ其住所ノ知レサル時ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サルヘシ可シ

人權トハ專ラ身分ニ關シタルコトヲ云フニ非ス總テノ債借授與等ノ義務ニ對スルモノニ非ス其目的ノ人ニアルト物ニアルトヲ區別シタル名ナリ

原告人ノ住所ニ被告人ヲ呼出ス時ハ被告人ニ於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且種々ノ弊害ヲ生シ其事實ノ取調ニモ不都合ヲ以テ故ニ被告人ノ住所ニ呼出スコトナリ

譬ヘハ東京人ニテ長崎ノ人ヘ金ヲ債タリト訴フモノアラン其真偽知ル可カラサルニ被告人ヲ東京ヘ呼出スニ万一訴偽ナルトキハ被告人ニ多少ノ費ヲ掛ルナリ依テ原告人ノ方ヨリ被告人ノ地ヘ往クヲレハ原告人ニ於テ右等ノ詐偽ヲ言フヲ得ス被告人モ無益

ノ害ヲ蒙ムルコトナシ故ニ被告人ノ呼ニ往ク
コヲ原則ト極メタリ
住呼ノ知レサルトアルハ住呼ノ定マラサル
時トスル方然リ
原被双方ノ住呼隔絶スル力或ハ故障アリテ
原告人自カラ行クヲ得サル時ハ被告人住呼
ノ代書人ニ申送リ之レニ托シテ訴訟ヲ為ス
其原告人ハ已レノ住呼ニ居テ濟ムナリ
若シ被告人数人アル時ハ原告人ノ択ニ従
ヒ其中一人ノ住呼ノ裁判所ニ呼出サル可シ

被告数人アルトキ数裁判所ニテ裁判セハ各
裁判各異アリテ債主ノ際ニ不都合ヲ生ス故
ニ原告人ノ撰ニテ一ノ被告人ノ呼ニ於テ

ス

物権ノ事ニ付テハ其物件所在ノ地ノ裁判所ニ
呼出サル可シ
物権トハ動産不動産ノミヲ以テ云ヘリ
ナレ共此ニハ不動産ノ物件ニ對シテ云フ
譬ヘハ土地ヲ已レノ有トスルノ訴或ハ其入
額ヲ已レニ収納センコトスル訴等是レナリ又

土地侵奪ノ ㇵ ニ付テ其地ヲ取返ス訴ハ即チ物権ナリ

然レ ㇾ ㇳ 警ヘハ失火ニテ土地ノ経界紛乱シタル時其経界ヲ定ムルニ隣地ノ者之ヲ兼知セサル時之ヲ兼知セシムルノ訴ハ人権ニ属ス

又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ売タリ仁去其地ハ長寄ノ何ノ處ト定マラサルナリ右ヲ違約シテ渡サヽル時之ヲ渡サシムヘキ訴ハ人権ナリ

近時佛蘭西ニ一例アリ已里ノ人「アルゼソー」ニテ土地ヲ引渡スヘキ契約ヲ為シタリ然ルニ其契約ニ引渡スヘキ土地ヲ確定セス只「アルゼソー」ノ山ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スヘシトノ ㇵ ナリシカ後ニ其人永敢トナリ終ニ其義務ヲ行フ ㇵ 能ハス依テ被告人ノ住所ヘ訴ヽ裁判トナリタリ是亦土地ニ関スル ㇵ ナレ ㇾ 共人権ニ属スレハナリ

動産ノ物件ニ付テハ何レノ處ニ呼出スヘキヤヲ記セス是レ法律ノ七此條ニ記スヘキ之ヲ記セス是レ法律ノ

未ダ尽サヽル所ナリ本條ノ下ニ動産ノ物件
ハ被告人所在ノ裁判所ニ呼出スヿヲ増補ス
ヽシ

○人権ト物権ト相混シタル事ニ付テハ其物件所
在ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ
呼出サル可シ

人権ト物権ト混シタルトハタトヘハ家屋賣渡
ノ契約ヲ取極メタル上ハ其家ヲ現ニ受取ラ
スト雖モ即日ヨリ買入タルモノ所有主ナリ
然ルニ賣ノ主引渡スヘキ期日ニ其家ヲ明ケ
渡サヽルトキハ人権ナリ又其家屋ヲ渡サ
スシテ自仍ニ使ヒタルニ付其家屋ノ所有ノ
権ヲ訴フル物権ナリ

右ノ二権ヲ混スルトキハ原告人ノ撰ミニ任カ
セ物件所在ノ地ニテモ又ハ被告人住所ニテ
モ呼出シテ差支ナシトス

所有ノ権ハ約定書取替ハシノ時甲ヨリ乙ニ
移ルモノトス故ニ物ヲ受取ラストモ買入レ
タル者其物ノ所有主ナリ然レハ其物ノ定マ
ラサルモノハ約定ノミニテ物ノ所有主ナリ

ト云ヲ得サルナリ

司法省

校

第二

訴訟法會議筆記

七年四月十五日

司法省

欄上○アルモノハ訴訟法原文

四月十五日會議

重テ人權物權ノ區ヲ説ク

人權ト物權トヲ分ツハ裁判上都合ノ爲メニ設ケタルモノナリ

總テ義務ニ關スルハ人權ナリ其義務ハ契約ヨリ生スルモ法律上ヨリ生スルモ之レアリ

物權ハ總テ物ニ對シ其物ヲ己レノ物ト爭フ等ヨリ生スルモノナリ其目的物ニ在ルニヘ物ノアル所ニ於テ裁判スルナリ

不動産ニ限リ必ス其現在ノ土地ニ於テ裁判スト雖モ動産ハ身ニ附屬スルモノトス故ニ被告人ノ裁判所ニ於テス

人權物權ノ區別ヲ爲シ又其一ケ所ノ裁判所ニ定ルヿニ付テハ緊要ノヿアリ左ノ如シ

原告人ノ多人數アルトキハ永派ノ場ニ至リ各其望ヲ充ツルヿ能ハサルモノナリ譬ヘハ三百万両ヲ借シタルモノアリ百万両ヲ借シタルモノアリ然ルニ數ケ所ニテ之ヲ裁判スル時ハ一人ハ十ノ七八分ヲ取ルヿヲ得又一人ハ十ノ二三分ヲ得ルヿ能ハス不公平ヲ生ス

故ニ之ヲ一ケ所ニテ裁判シ各其義務ノ高ニ
循ヒ分派ノ公平ヲ得ルヲ要スル所以ナリ
物ノ定マリタル約束ノ時譬ヘハ何地ノ何番
何号ノ家ト確定セシキハ則チ物権ニ属ス故
ニ其類ハ裁判権ヲ以テ其物ヲ差押ヘ取揚ル
ヲ得ル
物ノ定マラサル約束ノキハ物ナキカ如シ故
ニ其違約ニ付損害ヲ生スルトアレハ其償ヲ
出サシムル此類ノ如キハ分散ノキニ特権ヲ保
ツフナシ

米ヲ人ニ賣ルニ買入人ニテ其米ニ符号ヲ記
シタルノミニテ未タ買入人受取ラサル間ニ
賣主分散トナリタル時ハ即チ買人ニテ之レ
ヲ引取ルヲ得ル分散人ノ財産中ニハ入ラ
サルナリ
又既ニ米ヲ買ヒタリト雖モ其米ニ符号ヲ記
セサル中賣リ主分散トナリタルキハ買入人
之ヲ引取ルヲ得ス分散人ノ財産中ニ入リ
テ分派トナルナリ
入権ニテ訴訟起リ物権ノ一ニ渉ル共其訴訟

ヲ甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移スヲナシ
タトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地
ノ裁判所ニテ取調ヘタルニ何モアルフナシ
却テ彼地ニハ土地モアリ家屋モアリ此時ハ
此地ノ裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ添告人
彼地ヘ持參シ使吏ノ手ヲ經テ三十日ノ間ニ
渡スヲ命ス万一右三十日間ニ渡サヽル時
ハ彼地ノ使吏ノ權ヲ以テ取揚ルヲ得ルナリ
同上ノ場合ニテ米ヲ渡サヽル時家屋地所等
ヲ渡スフトナルハ其時ハ記文ノ書替ニテ則チ

之レヲ義務ヲ更改トス（民法千二百七十一條以下見合）
万一其人分散ニナラントスルハ記文ヲ書
替ヘ其義務ノ更改ヲ爲スヲ得ス
本文其物件ノ上ニ「原告人撰ミニ任セ」ト云フ
ヲ補ノ可シ是レ亦タ律文ノ足ラサル所ト云
又人權物權相混シタル例ヲ左ニ說ク
未タ丁年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ立ツ
ルノ權ナシ其契約ハ廢シテ可ナリ然レモ全
ク廢棄ス可カラサルモノアリ其契約ニ付訴
訟起ル時物主ハ幼年ノ人ナリ買主ハ契約ス

可カラサル人ヨリ買タル故不正ノ所為トナル其時ハ幻者ヨリ其物ヲ已レノ所有ナリト云ヒ又賣買スヘキノ権ナキ故其物ヲ引渡スヘシト云ヲ是レ人権物権相混スルモノナリ

治産ノ禁ヲ受ケタル人及ヒ婚スル婦人皆自主自由ノ権ナキヲ以テ未丁人ニ異ナルナシ

第五十九條第三項マテハ呼出シノ変則ナリ

此第四項ヨリ以下ハ呼出シノ変則ナリ

會社ノ一ニ付テハ其ノ會社ノ存続スル時間之ヲ設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

會社ノ事ニ付テハ人権ニカ、ルト雖モ必ス其會所ノアル地ニ於テ裁判ス

會社ニ其本社ノ定マラサルモノアリ此時ハ其社中ノ住所ニ於テス人権ノ正則ニ循ヒ又存続スル云々トアリ院ニ存続セサル日ニ至リテハ前条ト同一ナリ

遺物相続ノ一ニ付其ノ永訣ニ至ル迄ノ時間其相続人等ノ互ニ為ス許訟及ヒ永訣ノ前死者ノ債主ヨリ為シタル許訟並ニ永訣ノ裁判言渡ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺嘱ノ贈遺ヲ執行フ一ノ

為メノ訴訟」ニ付テハ其ノ遺物相続ヲ為ス可キ
地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

遺物相続ノ事ニ付テハ未タ分派セサル間ハ
死者ノ住所ニ於テス此レ人権ノ本則ト異ナ
リ既ニ分派スレハ否ラス

本文ニ分派スル迫ノ時間トアリ相続人数人
モアルキハ此係尽ニテ可ナリ其一人ノキハ差
支ナル文ナリ然レモ相続人一人ナルキハ右
ノ時間ヲ待ッニ及ハス直ニ其相続人ノ所
於テスルナリ

又相続人数人アルキハ怱議セシムル為メ又
後日混乱ノ起ラヌ為メニ其分派ニ至ル迫ノ
時日ヲ延ハシテ其死者ノ地ニ於テ裁判ス
一人ノ時ハ怱議ニ及ハス故ニ時間ヲ待タサ
ルナリ

然レモ善ク此一節ヲ解セサル可カラス死者
他人ヨリ預リ置クモノアル時ハ其預ケ人ヨ
リ取返ス為メノ訴ハ本則ニ循フナリ

此一節ニ限リ第一他人ヨリ相續人ニ對ス
ル訴訟第二死者ノ債主ヨリ相続人ニ對スル

訴訟第三遺嘱ノ贈遺ヲ執行フ為メノ訴訟ナリ

家資分散ノ下ニ付テハ分散人住所ノ裁判所ニ呼出サルヽ可シ

家資分散ノ「バイー」トハ高人ノ上ニテ云フ通常人ノ身代ヲハ家資分散ト云ハス賊産抛棄ト云フ(コンフチール」民法千二百六十五條以下見合)

高人家資分散ト決スレハ管賊人(サンチック)ヲ定メ其者ニテ夫々賊産ノ委置ヲ為ス故ニ債主ヨリ管賊人ニ対リ訴訟ス然ルトキハ管賊人ノ住所ニ呼出スヘキ様ナレトモ変則ニテ其分散人ノ所ニ呼出スナリ

右管賊人ハ債主ニテ撰ムナリ

分散ヲナスヨキ一時ニ債主ノ集マルヿハ出来サルナリ故ニ高法裁判所ニテ假リノ管賊人ヲ申付ケ置キ債主皆集マリタル上債主悦議シテ本管賊人ヲ立ツ

常人賊産抛棄ハ管賊人ヲ立ルヿナシ

家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フヿヲ止メタル以後ヲ云

高法四百三十七條見合

貶産拋棄ハ已レノ所有スル諸般ノ貶産ヲ悉ク義務ヲ得シキ者ニ付キ十五條見合

家資ノ散ニ付民事ノ関係ニタル故アルヰハ民事裁判所ニテ之ヲ裁判ス

但シ債主ノ特権書入質ヲ云フ

校
第三

訴訟法會議筆記　四月二十日

司法省

欄上○アルモノハ訴訟法原文

第五十九條第八項

保証ノ事ニ付テハ主タル訴訟ヲ為シタル裁判所ニ呼出サルル可シ

此條ハ甚タ六ケ敷キ呼ロナリ先ツ保証ノ事柄ヲ説カン

保証トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ勝ツノトスルニ付キ他ノ一人ヘ對シ、防禦ヲナス為メ保証人ニナルヘキコトヲ依頼スル意ナリ「タトヘハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ルキハ債主

負債主アリソノ時ニ當リ別ニ保証人アリ後ニ債主ヨリ負債主ニ金ノ返濟ヲ求ムルコトヨリ訴訟トナル如此キハ負債主ハ必ラス自カラ防クヘシ保証人ヲ頼ミ防クノ理ナシ然ルニ債主ヨリ保証人ニ對シテ債ヲ求ムルキニ至リテハ保証人ヨリ負債主ニ對シ防禦ヲ求ムルノ理アリ

債主東京ニアリ保証人モ亦東京ニアリ負債主ハ西京ニアリソノ時債主ニ便利ノ為メ保証人ヲ相手取リテ訴フルキハ保証人ニテハ

負債主ヲ呼出サルヲ得ス是ニ於テ負債主
ハ保証人ノ為メ東京裁判廳ヘ呼出サル可シ
本則ニハ原告人ハ負債主ヲ東京ニ在ヲ以テ西
京ノ裁判所ニ訴フ可キヲナレトモソノ主タル
訴訟ハ債主ヨリ保証人ヲ訴フルニ付キ負債主ヲ東京ニ呼出サル可シ
負債主ヲ訴フルハ本則ナレトモ保証人ヲ訴ル
モ負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス
此條ハ債主ノ為メニ甚タ便利ナリト雖モ又
負債主為メニ便利ナル様第百八十一條ニ補

足スルモノアリ

前文ニ云フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ奸計ヲ
為ス為メニ保証人ヲ訴ヘタルキハ負債主ニテ
右奸計ヲ覚リ且リソノ証アルキハ負債主ノ住
所ノ裁判所ヘ債主ヲ呼出スヲ得可シ
タトヘハ西京ノ負債主ハ富人ナリ故ニ保証
人ヲ訴フルニ及ハス然ルニ東京ノ保証人ヲ
訴フルハ何カ奸計アリトス此ノ如キ其ノハ
證アルヲ以テ負債主ノ住所ヘ引キ付ルヲ得
ル

佛國ニ於テハ前ニ此條ヲ置キ後ニ第百八十
一條ヲ置キ補足スル日下日本ノ如キハ心ラス
負債主ノ住所ヘ訴フルニ於テハ如此心配ナ
シ
二人ニテ同シク借リタルモノアリ債主ニテ
甲ノ一人ヲ訴フルキハ乙ノ一人ハソノ債主
ノ撰ミテ訴ヘタル裁判所ヘ出サルヲ得ス
又一例ヲ擧ケン甲ニテ乙ノ家ヲ買フ故ニ其
家ノ主ト思フ然ルニ而ノ一人来リテ我レ主
ナリト云フテ其取戻シヲ訴フ之レハ物権ニ付其物
件所在ノ裁判所ニ訴フ
其時甲買主一人ニテ勝テハ宜シ若シ一人ニ
テ勝タサルノ見込アルキハ元トノ賣リ主ヲ
其裁判所ニ呼寄セ防禦ヲ為サシムル之レ保証
ナリ其時元賣主ニ對シ其訴ヘヲ救フコ
ヲ得サルキハ裁判所ニテ元價ヲ返スヿ可シト
言渡スヿ可シ此裁判ニ付テ買人ノ負ケトナリ
買ヒタル家ヲ他ノ一人ニ渡スヿニナルヿレ
ニテ一ト裁判済ムナリ然ル後其家ノ元價ヲ
賣主ヨリ取戻スコヲ訴フ此時ハ人権ノ本則
ニヨリ賣主住所ノ裁判所ヘ訴フ

前文ノ場合ニ於テ貸主ニテ賃主ヲ呼ハス訴ヲナス如キハ無用心ノ甚シキナリ万一其訴ニ負ケタル後賃主ニテ何故我ヲ呼ハサルヤ我レニ證書アリ我ヲ呼ヘハ負ケサルモノヲ今ニ至リテハ我レハ関セスト云フ如キハ此訴訟ハソレ切サニテ濟ムナリ（此ノ如キ場合ハ決シテ実地ニ於テハナラヌ裁判ノ一之レナリ）

尚負債主既ニ借用金ヲ返シタル後其受取書ヲ失フタルトキ債主ニテ未タ之ヲ受取ラサル旨ヲ申立更ニ賃金取戻シノ訴ヲ為スソノ時受取書ナキニヨリ負債主ニテ負ケトナリ一旦裁判濟ミタル上後日ニ至リ負債主ソノ受取ヲ見出シタルトキハ二重ニ返シタル訳ハ取戻シ出来ルヤ

答既ニ裁判ニテ裁判ヲ為タル上ハ之ヲ取上ケス一旦裁判シタルモノヲ再ヒ取上クル時ハ裁判轉轉シテソノ権ナシトス但一方ノ者其不正ナルコヲ知テ之ヲ返ス時ハ格別ナリ之ヲ自然ノ義務トテ云フ

問日本ニテハ後ニ證ヲ見出シタルトキハ幾度ニ

テモ裁判ヲ為スナリソノ得失イカン

答左様ニテハ一時假ノ裁判ト云フモノナリ證ノ出ル毎ニ取揚ルニテハ裁判ノ心ム時ナシ故ニ佛ニテハ取揚ケス

然レモ一旦裁判済タル後更ニ證ヲ出シ裁判取消ヲ願フニヨリ許スニハ凡十ケ條アリ四百八十條ヲ見合前文ノ如キハ十ケ條ノ内ニ入ラス

第九項

證書ノ如ク執行ヲ為ニ付キ別段住所ヲ擇ミタル時ハ民法第百十一条ニ循ヒ別段擇ミタル住所ノ裁判所又ハ被告人ノ真ノ住所ノ裁判所ニ呼出サル可シ

住所ヲ撰ムトハ双方同意ニヨリテ撰ムヲ云フリ又原告人ノ為ニ択ムヲアリ被告人ノ為メ擇ムヲアリ此條ニテハ原告人ノ便利ノ為メニ被告人ノ住所ヲ擇ムヲニ就テ言フ之レ本則ナリ

又変則アリ若シ被告人便利ノ為メニ擇ムヲハ原告人ニテ他ノ裁判所ヘ訴出スルヲ得ス

原告人ノ為メニ擇ミタルトキハ動カス可カラサルモノトス

又原告被告雙方ノ為メ何レノ便利ナルヤ契約書ノ文意不明ナルトキハ必ス被告人便利ノ方ニ擇ミタルモノト為サス被告人ノ為メニ擇ミタルモノト為ス可カラサルモノトス

千百六十二條見合

司法省

第四

訴訟法會議筆記　七年四月二十五日

司法省

四月二十五日會議

第六十條　裁判所ニ管シタル官吏代書師使吏等ヲシテ裁判所ノ費用ノ償還ヲ得シトスル時ハ以前其費用ノ生シタル裁判所ニ之レヲ許出ス可シ

一是レ第五十九條ノツヾキニテ本則ニ違ヒタル一則ヲ挙クルナリ

一裁判所ニ管シタル官吏トハ使吏代書人ヲノ外書記官モ此中ニアリ但シ代言人ハ関セス

一代書人ハ重ニ原告人トナルヲノ譯ハ頼マレタル節入費ヲ請取置クト雖モ多クハ不足スルアル故ナリ故ニ使吏代書師等ノ原告人トナル方ヨリ説クナリ

一通例ナレハ即チ被告人ヲ其住所ノ裁判所ヘ呼出ス可キナレトモ之レハソノ費用ノ生シタル裁判所ヘ呼出ス即チ變則ナリ

然レトモ能ク注意スヘシ人権ニ付テノ訴訟ハ必ラス被告人ノ裁判所ヘ許ス被告人ノ裁判所ハ則チ費用ノ生シタル裁判所ナレハ自ツカラ正則ニ循フ訳ナリ若シ物権ニ付キタル訴訟ナレハ則チ本條ノ規則ニ循フ即チ變則

ナリ

一又代書師等ノ被告人ニナル時ヲ云ハ即チ訴訟入費ヲ取リスキタル時ナリ

一代書師ハ裁判所ノ権限アリテ他ニ行クヲ能ハス故ニ代書師被告人ニナルトキハ則チソノ奉仕ノ裁判所ニ呼出サルヽナリ何トナレハ奉仕ノ裁判所ハ即チ本人ノ住所ニテ費用ノ生シタル裁判所ニ訴フルヲナレハ之レ即チ正則ナリ

一其裁判所ヘ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取扱ヒテ能ク其事柄ノ分明ナレハナリ

若シ代書師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後訴訟ノ如キハ即チ以前奉仕ノ裁判所ヘ呼出タサル、ナリ

一若シソノ代書師死去セシ後訴訟起リタル節ソノ子孫遺物相続ス而シテ各所ニ住ムル裁判所ヘ訴訟ス可キナレモ代書師ニ付キタル訴訟ユヘ即チソノ奉仕ノ地即チ裁判費用ノ生シタル裁判所ヘ訴フルナリ

此ノ如ク寃則多ケレモ其寃則中ニ則ノアルモ亦又シ

一第一　裁判費用ノ法生シタル裁判所ニ訴フルヿ所以ハ其道理ヲ能ク知了シ居ルユヘ其裁判所ヘ訴フルナリ

一代書師謝金目録ノ常制アリト雖モ別段ニ六ケ敷訴訟ナレハ幾分ノ謝金ヲ増シ與ヘルヿアリ此等モ此裁判所ニテ能ク其事柄ヲ知リ居ル故ナリ仍テ此ノ理ハ拙劣ト思フナリ何トナレハ以前ノ裁判官ニシテ能ク其顛末ヲ知リタルモノヽ調ヘナレハ宜シケレモ必ラス前ノ裁判官トハ定難シ殊ニ此理ノ如キハ別ニ裁判費用ホノ事件ノミヲ取調フル為メノ裁判官アレハナリ

司法省

一一局ニテ成レル所裁判所ナレハ我カ言ノ如キノミナラサルモノアル可シト雖モ裁判官ハ昇進シテ各所ヘ轉シ又退職スルモノアレハナリ

一又年月ヲ過キテ訴フルニ前ノ裁判官ハ在職スルヤ否ヲスヽ知ルヘカラス

一タトヒ此ノ如キヲ許フルトモ許人ノ言フ
ヲ直ニ聴クノニアラス其一件書類ヲ以テ其
費用ノ額ヲ定ムルニアラス其ルヿヘ何レノ処ニ訴出ス
ルモ宜シキニアラス
故ニ前ノ裁判所ヘ訴フルノ説ハ立タサ
ルヿナリ
否ラス若シ代書師等不正ノヿヲ為スキハソ
ノ裁判官ニ於テ公ハ督責ノ権アリ又免職ヲモ
ナスノ権アリ故ニソノ裁判所ヘ訴フル訳ナ
リ

然リト雖モソノ代書師等ノ免職又ハ死去ス
ルヿアレハ罰スルヿハ出来サルナリ故ニ以
上道理ト云ヒタルモノ皆不道理ナリ

司法省

因テ考フルニソノ謝金ヲ取過キタル分ハ何
レノ裁判所ニテモ取戻スヿハ出来ルナリ故
ニ本條中償戻ヲ省ントス故スル時ハ下ヘ其職
務ヲ行フノ間ノ一語ヲ加ヘサル可カラス
一此條ハ立法官ニテ代書師ノ弊ヲ矯ムル為メ
ニ立タルモノナレモ其免職又ハ死去等ノ節
ハ為ス可カラサルニ至レリ

餘論

一此條ハ専ラ代書師等ノ被告人トナルキノ為メニ設ケタリ

一元来法律ハ正則ニ依テヲ主トス変則ハ少ナキ方宜シ

一代書師ノ原告人トナルキハ必ラス変則トナルヘキ故ニ

一巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ為メニ別局ヲ立ツルハ古ヘ此類甚タ多シ即今ハ代書師會社アリテ大抵ハ右ノ會社ニテ調ヘ濟ミトナル

ユヘニ甚タ少ナシ

一昨年珎ラシキ訴訟アリ代書師ニテハ千フランクノ謝金ヲ取ラントセシヿアリ白爾教師ニモ相談アリタリ頼ミタル人ハ四千フランクヲ與ヘントセシヿタリ然ルニ會社ニ裁判官ナトノ見込ミニテ六千フランク遣ルヿトナレリ」

一元来謝金目録定則ノ外ニ別段ノ謝礼金ヲ遣ラサル可カラス若シ常例ノ外ニ遣ラストセハ裁判官ニテ適宜ニ謝礼ヲ遣ルヿ可シト言

渡スナリ右ハ夫々ニ入貴又ハ時間ヲモ費ヤス故ナリ然レ氏撃アリ良法ニアラス

一之レニ反シテ代言人ハ自ラ謝金ヲ求ムルヲ得ス頼ミタル人ノ贈與スルヲ以テ足リトスルノ外ナシ故ニ其謝金ヲ受クテモ辞セス又贈与セサルトモ訴フルヲ得ス

一代言人ハ訴訟ニ付キ頼ムモノヽ本心ヨリ贈ルモノハ請ルヲ得ヘシト雖モ謝金何程ト豫メ約束スルハ禁スルナリ

一別段ノ謝礼ハ使夫ニハ贈ルニハ反ハス但シ事ヲ寄リ別段ヲ取カヲ盡スヲアリソノ時ハ過分ニ入貴ヲ取リ居ルヲアレハ訴訟トナル

別段ノ謝禮ノアルヲモアリ

一代言人ヲ頼ミタリトテ贈ル可キ金ナキモ何程贈ル可シト證書ヲ以テ許フルヲ能ハス

ヲ贈ラストモ其證書ヲ出スヲアリ後ニ右ノ金

一本條外ニ変則トナルヲ更ニ述ヘントス

一民生證書ニ有心又ハ過誤ニテ誤字書損等アルヲアルソノ取調ノヲ許フルニハ変則トナルナリ其許ハ我子タルヲ認ムルカ又ハ夫

婦離縁等ノ身分ニ関スルノ訴ト雖ナリ是レ全ク證書ノ誤リノミヲ訴ルモノナリ

一右ハ人ニ對スル訴ニアラス書類ニ對スルノ訴ナリ

一民生證書ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤マリシモ知ル可カラス故ニ此ノ如キ訟ハ被告人アルヿナシ

一右ノ訴ヘニハ呼出狀ナシ使夫ノ取次ニテ裁判所ヘ願書ヲ出スヿナリ

時始メテ検事ハ被告人トナルナリ

一此ノ訴訟ハ何レノ裁判所ヘ差出スヿ可キヤノ法律ニ記載セスト雖モ最初民生證書ヲ記載セシ裁判所ニ差出スヿナリ

一通常至急吟味ヲ乞フモ願書ヲ出スナリ其時ハ裁判所長ヨリ許諾返書ヲ出ス民生證書ノ願書ニ付テハ返書ヲ出スヿナシ何トナレハ其柄ヲ必ス取調サルヲ得サレハナリ

一右ニ付テ道理アリ通常至急吟味ハ許スト雖サハルトノ裁判官其緩急ヲ見計フヿナリ此民生證書取調ノ願ニ於テハ即チ裁判ヲ願フ

ナリ之レヲ取揚ケサルハ裁判ヲ拒ムニ属ス

一民法第九十九條ニハ唯其呼轄ノ裁判呼ト記載セリ夫レニテハ分明ナラス心ラスッノ書類ノアル裁判呼ヘ許ス可シト改正ス可シ

事柄ニヨリ親類等ニ被告人ノアルコモアリ民法第百條ヲ見合ス可シ

ソノ被告人アリトキニ被告人ノ裁判呼ヘハ出テス

第六十一條呼出状ニハ左件ヲ記ス可シ

第一年月日原告人ノ姓名職業住呼其旨ニ代ル可キ代書師ヲ任シタル事及ヒ原告人其代書師ノ家ニ別段住呼ヲ擇ミタル事

但シ代書師ノ家ニ別段住呼ヲ択ミタル事ナキ時ハ其旨ヲ記ス可シ

一呼出状ニ年月日ヲ記スト雖モ何曜日トハ記セス

何ノ為メニ日ヲ記スト言ヘハ日ヲ記セサレハ呼出状ノ日限分明ナラス右ハ幾日ノ時間ニ裁判呼ニ出ル云々ノコトアルユヘナリ

一禮式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出状ヲ出スコト

ヲ得ス但シ至急ノ事ニ付テハ願書ヲ出シ許シヲ受ケ可シ第六十二条見合

一使吏ノ呼出状ヲ書ク時何月何日何某ノ願ニ依テト記ス被告人一見シテ原告人何某ノ呼出ニテ何日ニ裁判庁ニ出ツルヿヲ兼知スルヿヲ得ス

ナリ

一佛ノ法ニテ代書師ナシニハ訴フルヿヲ得ス故ニ代書師ハ何某ト記ス

一此呼出状ヲ遣シハ被告人ヨリ返事ヲ為スニハ原告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ送ル

本住所ヘ往復スルヿハ遠隔ノ地等ハ不便利ナリ故ニ右等ハ別段ノ地ノ代書師ノ家ニ別段住所ヲ撰ムヿアリ

然レモ原告人ニテ必ラス其家ニ寓スルニアラス

一本文住所ヲ択ムヿトハ代書人某ノ家ニ住居スルヿナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ撰ミタル時ハ何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スルヿナリ

○呼出状ニ別段住所ヲ撰ミタルコヲ書セサルヘカラス

訴訟法會議筆記

四月三十日

司法省

凡例

欄上ノアルモノハ許訟法原文

四月三十日會議

一前會第六十一條ノ第一住所ヲ擇ブ者トハ代書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ書載スルヲナリ但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタル時何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載スル事ナリ

第二　呼出狀ヲ送達スル使夫ノ姓名。住居。授任狀。被告人ノ姓名。住居并ニ呼出狀ノ副本ヲ別ニ受取ルヲ可キ者アル時ハ。其者ノ姓名ヲ記スヲ可シ。

前項ニ原告人ノ記スヘキヲ記スノミニテハ呼出ノ効ナシ依テ此項ニ使夫ノ記シ。又被告人ノ記スヘキヲ記シ。又其受取人ノ記シ。テ始テ其効ヲ生スルナリ

被告人ノ姓名云々。右ハ知ルヲ得ヘキニ於テハ姓名トモニ記載スト雖モ。姓ノミニテモ忌レリトス。職業等記スルニ及ハス。

別ニ受取ルヲ可キ云々呼出狀ハナルヘキ丈ケ本人ニ渡スヘキナレ共。本人ナキ時ハ本文ノ通リ。親族從者近隣ノ者ニ渡シ置クヲ得

ルナリ。第六十八条見合

本人ニ呼出状ヲ渡スヿハ。必ス其家ニ於テス
ルニ及ハス。途中ト雖モ之ヲ渡シテ苟シカラ
ス。

然レトモ裁判所ニ在ルキ。又ハ議院ニ出席ノ時。
又ハ寺院ニテ説教中等公礼儀式ノ場ニテハ。
右状ヲ渡スヿナシ。

其公禮儀式中ニ。右状ヲ渡サヽル譯ハ二説ア
リ一ニハ右ノ状ヲ渡ス為メニ傍人驚駭ヲ醸
シ満堂ノ妨害ヲ為セハナリ

二ニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムヿヲモ出
来ス直チニ懐中シテ遂ニ忘却スルニ至ルヿ
アレハナリ

司法省

使吏其家ニ行キテモ本人不在ナル時ハ其親
族又ハ僕婢ニテモ居合セタル者ニ渡置クヿヲ
得ル

右ノ場合ニ於テ法律上ニテ丁幼ヲ論スルヿ
ナシト雖モ幼者ニハ渡置クヿヲ為サス。若シ
幼者ニ渡スヿアレハ其使吏ニ罰アリ

其事ヲ辨スヘキ程ノモノナレハ婦女子ニテ

モ之ヲ渡シテ差支ナシ

右親族僕婢ニ渡シタルトキハ。使吏ヨリ其受取ヲ請ハス。又其親族僕婢モ受取ノ印ヲ押スニ及ハス。又被告人自カラ受取タルトモ。受取書ヲ出スニ及ハス。但シ親族僕婢ノ受取タルトキハ。本文ノ通リ使吏自ラ其呼出状ノ正副本ニ其者ノ姓名ヲ記入スルナリ。

原来使吏ハ。奉職ノ始メ誓ヲ為シタル官吏ニテ。右等職務ノ取扱上ニ於テ。詐偽ヲナサヽルモノトス故ニ受取ノ證ヲ他人ニ請ハストモ自身ノ記入ニテ十分ノ証アリトス若シ其書面ニ詐偽ヲ為シタル時他人ヨリ訴ヽ出テ其事實詐偽ノ證出ル迫ハ。真正ノ者トス。其景況ニ詐偽ハ極マルトキハ。刀論其厳罰ヲ受クルナリ。

司法省

若シ受取リタル者。親属婢僕同居ノ者ニテ其状ヲ紛失セシムルトキハ。使吏ノ罰ニアラス。被告人ノ家事不取締ニ帰スルナリ。

被告人其呼出ヲ知ラスシテ裁判所ニ出席セサルトキハ。欠席裁判トナル。然レモ其裁判ニ

不服ナルキハ。右行違ノ故ニ因リ故障申立ルヿヲ得ル。故ニ補ヒノ出来サルモノトセス。

若シ呼出状ヲ渡スニ。其者ヨリ受取ヲ請フテ始テ之ヲ記トナスヘキハ。必スシモ使吏ノ職掌ヲ待タスシテ可ナリ。然レトモ其状ヲ持行キタルキ被告人ノ處ニ誰レモ居合セサルヿアリ。或ハ之ヲ避ケテ故ラニ不在スルヿアリ。然ルキハ何時マテモ。裁判ヲ得ル能ハス。原告人ニ於テ迷惑少カラス。

又受ニ一説アリ。別段賃銭ヲ高ラシ郵便ニ托シ本人ニ手渡シテ。他人ニ渡サヌ法アリ。此ノ呼出状モ此ノ取扱ニナシタラハ然ラントノ説アリ然レトモ亦不都合アリ。被告人其呼出状ヲ得テ裁判所ニ出サルモノアリ。裁判所ニテ之ヲ詰問スルニ書状ヲ得タルハ呼出状ニアラス。他ヨリ金ヲ送リタルナリ。請待ヲ受ケタルナリト言ヒ紛ラスコトアリテ。誰モ其書ヲ検査シタルモノニ非ラサレハ其真偽ヲ區別スル能ハス甚タ困難ヲ生ス。

故ニ一種ノ権アルモノニテ擔當シ過テアレハ

心ス罰ヲ受ルモノナカル可カラス。是即チ使夫ヲ置ク所以ナリ。

又被告人及ヒ一家不在ノトキハ。必ス接近ノ隣人ニ渡シ置クヲ得ル。其近隣ト云フハ。楼上ヲ始メ四隣ヲ近隣ト云フ二階家アルトキハ下ス二住スルモノヲ呼ス楼上ハ尤モ近隣ナリ。

其近隣ノ人受取リタルトキハ。其使夫其近隣ノ者ヘ責ヲ帰スル為メニ其受取ノ證アルヲ要ス。詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ。

司法省

法律ニ於テハ。一軒ヲ隔テタル家ニ渡ス可カラスト云ハサレハ。其使夫ニテ其隔リタル家ニハ之ヲ渡サス。

又近隣ト雖モ酔人又ハ平生不行跡ニテ頼ルヘカラサルモノヘハ。之ヲ渡スヲナシ。

頼ルヘキ人ニ之レヲ渡ストキハ。其ノ者正本ニ其ノ姓名ヲ手署スルヲ得ス又之ヲ拒若シ之ニ姓名ヲ手署スルヲ得ス又之ヲ拒ム時ハ使夫邑長副邑長ニ渡シ其按印ヲ受ルナリ第六十八條ニ詳カナリ。

然レモ第六十九條第八項ノ場合「佛蘭西國内ニ今明ナル住所アラサル者ヲ呼ホス時」ハ此例ヲ用フ可カラス

其時ハ同項ニ記載シタル通リ其訴ヲナシタル裁判所ノ門扉ニ貼付スルナリ

第三　訴訟ノ目的。

ナル辨明。

訴訟トナル可キ目的何等ノ事ト云フヲ記ス不動産取戻シ訴ナラハ取戻ス所ノ目的又所有ノ權ノ訴ナラハ所有ノ權アル目的ヲ巨細ニ記ス可シ

右訴訟ニ付此ノ如ク問フニアラス此ノ如何ト問フニアラス此ニ記ス可シ

又唯金ヲ貸シタルトバカリニテハ。其事ヲ明ナラス。何ヲ賣リ又ハ金トカ。又ハ家賃ノ滯リトカ云フ。其緣由ヲ記ス

又其私ノ証書アルトキハ其証書ヲ以テ証擄トナス可キ旨ヲ記ス可シ。万一証拠トナル可キ私ノ文書ナキ時ハ。人ヲ以テ証トナスヿヲ記ス可シ

公正ノ證書ハ此等ノ弁解ヲ用ヒストモ十分ナリ

右等ノ一ヲ記載スル所以ハ被告人ニテ之ヲ一見シテソノ訴訟ノ相當ト不相当トヲ認メテ其覺悟ヲナス為メナリ

不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記シ小名ヲモ記スヲ可シ

レハ其小名ヲモ記スヲ可シ

右ニテモ不足之ナリ其隣地ヲモ記ス

町名番号アレハ亦之ヲ記ス時トシテハ此ノ如ク詳細ナルニ及ハス其一圃ヲナシタル不

動産ニ字アルノ類ナリ譬ヘハ上野浅草ト云フカ如シ第六十四条第八十四条ノ見合

右ノ通リ記シ置クハ被告人ニ疑ヲ生セサラシムル為ナリ此項三段ト區分シ。一ハ其事物ノ目的。二ニハ其確実ナル証據ナリ。三ニハ其縁由次第。三ニハ其物権所在ノ地ノ裁判所ヲ記シ

第四　許訟ヲ審判ス可キ裁判所。又ハ其裁判所ニ出席ス可キ猶預ノ期限。

物権ナレハ其物権所在ノ地ノ裁判所ヲ記シ

又被告人數人アルトキ又會所アルノ場所定マ

ラサルヿ等ハ其會社中一人ノ住所ニ出席スヘキヲ定メ記スナリ

其裁判所所在ノ地名ヲ記入スルナリ

右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルヘシニ念ヲ入ルヿナリ猶預ノ期限トハタトヘハ裁判所近傍ニ住スルノ人ヲ呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出スナラハ中間八日ノ猶預ヲナシ来ル五月九日出席スヘキ旨ヲ記ス法律ニ定メタルナトヽ書クヘカラス法律ハ人民一般ニ知ルヿヲ看做シアレモ中々全国人民皆能ク知ルモノニアラス

右ノ数ケ条ハ原告人ニテ取調ヘ申述ル上使吏ニテ呼出状ニ記入スルナリ同區内ト雖モ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリ

十一メリヤメートルヲ毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物権ノ時ハ猶大切ナリ各地ノ距離ヲ知ラサルモノ多シ

又被告人多キ時ハ日数ヲ費スナリ其猶豫ノ原則ハ第七十二条ニアリ佛蘭西國内ニ住居スル者ニ付テハ総テ八日ノ猶豫アリ里程遠

キ時ハ五日ヲ「ヤメトル」毎ニ別ニ一日ヲ増
加ス
八日トハ中間八日ニテ呼出状到着ノ日ト裁
判所ヘ出ル日トハ除イテ八日ノ内ニ算入セ
サルナリ
祭日ニ當ル日ハ呼出状ヲ出サス又裁判所ヘ
モ出テス
又右ノ八日目休日ニ當ルキハ其翌日ニ呼出
スコトナリ若其祭日八日中ニアルモノハ期限
中ニ算入スルナリ

右ノ八日ハ通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告
人其期限ヲ縮メテ呼出スコトヲ願フヲ得ル
原告人ハ何レノ時モ至急ナルコトヲ欲セサル
ナシ然レモ裁判官ニ於テ其事柄ニ急ニスヘ
キト否ストヲ見計ヲヒ其願ヲ許スコトアリ許
サヽルコトアリ
此願書ヲ差出スコトハ裁判所ニ限ルコトニ非ラ
ス裁判官ノ宿所ヘ至リ願フモ可ナリ其時ハ
ソノ宿所ニテ之ヲ許スコトアリ第千四十條ヲ
見合スヘシ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出状ノ効ナカルヘシ

此六十一條ノ内一ケ條ニテモ欠ケタルトアレハ呼出ノ効ナシ

若シ伏夫ノ誤ツテ記シタルトキハ。書直ス計リニテ被告人ノ損トナルコトナキナリ。

其誤書シタル時ノ入費ハ。使夫已ニ擔當スヘシ。

可シ。第十三十一條見合。

裁判ニ於ケルトキハ必ス裁判官ニテ其呼出状ヲ検査スルナリ。

右ノ効ナキ呼出状ニ付被告人ノ出席セサル時。裁判官ニテ其呼出状ノ誤アルヲ知レハ裁判ヲ為サヽルナリ

若シ裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲ為ストアリテ。後ニ被告人ヨリ故障ヲ申立ルトキハ其裁判ハ費ハ一切使夫ヨリ出スナリ。

再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ。

初メノ欠席裁判ノ入費ハ。使夫ヨリ出スコトナリ。右誤書等ノ場合ニ付。大切ナル二件アリ。

裁判官呼出状ヲ検シ。欠誤アル時裁判ヲ為サルハ。其裁判ヲ拒ムニ非ラス。其欠誤アルヲ

百フランク」。

以テ其事件ヲ了解スル能ハサル故裁判ニ取捗ル能ハスト云フ意ナリ是其一ナリ

又呼出状ノ不都合ナルニ因テモ。大抵使吏ノ過チニアリ。

其罰ハ八フランク位ノ罰金ニテ済ムコトアレ共。事柄ニヨリテハ。其償ヲ為ス為メニ百万フランクノ大金ニ及フコトアリ。之カ為メニ其株式ヲ失ヒ其身代ヲ抛棄シテモ足ラサルニ至ルコトアリ是其二ナリ

警ヘハフレスクリプシヨン」ノ期将ニ尽ントスル頃原告人ヨリ訴ヘタルモノヲ使吏ニテ

司法省

其期限ヲ急ヒテ呼出状ヲ出サヽル如キモノ類原告人ノ損失莫大ナルヨリ其責使吏ニ帰シテ事此ニ及フナリ。

公札儀式等ノ節ニ呼出状ヲ送達スルハ全ク効ナキニハアラス使吏ニテ五フランク」ヨリ

マテノ罰金ヲ言渡サルルナリ

使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合セテ六十人トス当時ハ其負ヲ増スモ計リ難シ。但シ区裁判所ノ使吏ハ此中ニ算入セス

法律ニ効ナシト記セサルカハ。其呼出状ニ於

テ効ナシトセス。其過チハ使吏其責ニ任シ罰
ヲ受クルナリ使吏ノ慎マサル可ケンヤ。故
ニ日本ニ於テ此使吏ヲ置クハ。温厚篤実且
キアリテ家資富有ノモノヲ擇ム可シ。
佛ニテ使吏。先ツ身元金ヲ大蔵省ニ預ケシ上。免
許状ヲ得。然ル後ニ非ラサレハ使吏務ヲ為ス
ヿヲ得ス之レ定則ナリ。

司法省

訴訟法會議筆記　七年五月五日

司法省

欄上○アルモノハ訴訟法原文

第六十二條　使吏ヲシテ呼出状ヲ送達セシムル謝金ハ一日分餘ノ額ヲ拂フ可カラス

使吏呼出状ヲ送達スルニ其裁判所ヲ在ノ「ルロンデスマニ」中ノ遠キ所ニテモソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外之ヲ拂フコトナシ

其時ニテモソノ佛ニテ以前ハ二日モカ、ルコトアレ共近時ハ往来ノ便大ニ開ケタルニヨリ二日モカ、ルコトナシ假令二日カ、ルトアルトモ一日分ヨリ外其旅費ヲ拂フコトナシ

裁判所ヨリ被告人ノ住所マテ五「キロメートル」ヨリ十「キロメートル」迄ハ一銭モ其旅費ヲ拂フコトナシ

五「キロメートル」以上ハ五「キロメートル」毎ニ「ランク」迄ハ一銭ヲ拂フコトナシ

十「キロメートル」以上ハ五「キロメートル」毎ニ「ランク」迄ニ「ランク」ヲ增ス

二「ランク」ヲ增シテ二十「ランク」迄ニ「ランク」ハ五十分ノ一「キロメートル」ニ當ル

若シ二日モカ、ル時ハ使吏自費ニテ之ヲ辨

又佛ニテハ往来ノ便アルユヘ其旅費二十ヲ
ランクニ止マルトモ使夫ノ損トナルヿナシ
其近キ処ニテハ随分羨餘モ之レアルユヘ自
ラ衆除スルヿアリ
右ハ裁判入費目録中ニ詳カナリ

第六十三條　裁判所ノ上席ヘヨリ免許ヲ得サ
レハ祭日ニ呼出状ヲ送達ス可カラス
祭日ニ呼出状ヲ出スニ効ナキニアラス使夫
ニ過ナアレハ其責トナルヿ前ニ説キタリ

第六十四條　物権ト物権ト相混シタル事ニ付テノ訴訟ノ時
ハ呼出状ニ不動産ノ種類其所在ノ邑ト名及
ヒ知ルヲ得ヘキニ於テハ其邑中不動産所在
ノ部及並ニ其不動産ニ隣レル地ノ中少ナク
トモ二箇所ヲ記ス可シ但シ一團ヲ為シタル
不動産ニ管シタル時ハ其名ト其所在ノ地ヲ
記スルヿノミヲ以テ足レリトス若シ此等ノ
事ヲ記セサル時ハ其呼出状ヲ取消ス可シ
此條土地ヲ記スルヿハ第六十一條ノ第三ノ
下ニ説キタリ故ニ此ニ贅セス

第六十五條　此條勧解ノ一アルニ付先ッ勧解ノ概要ヲ説ク

千七百九十年代佛蘭西ノ大憲章ヨリ蘭英ニ倣ヒ此勧解ノ法ヲ用ヒタリ

此時ヨリ英ニ行ハルヽ陪審ヲ用フ

佛ニテハ何レノ國ヲ論セス美法アレハ取テ用フルノ説アリ

治安裁判官ニテ必ス相手ノ双方ヲ呼寄セ裁判所ノ中ニアル自分ノ室又ハ自分ノ宿所ニテ通常ノ衣服ニテ又ノ子ニ教フル如ク勧解ス此時ハ裁判官トセス云ハス勧解人ト云フ又其場所ハ裁判所ト云ハス勧所ト云フ

勧解ハ人権物権ト雖モ必ス被告人住所ノ治安裁判官之ヲ為ス動産不動産等ノ別ヲ立ツルヿナシ

其住所ニテ勧解スルハ平生其原告ハ被告ノ一方ノ者ヲ能ク知ル故ニ勧解為ニ易キヲ以テナリ

其事柄ニ付勧解ヲ受クルニ及ハサルモノアレトモ大抵必ス勧解ヲ受ルヿナリ

タトヽハ甲トスル乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲナスソノ丙ハ新タナル人ナレ共之レカ為勧解ヲナスヿナシ何トナレハ甲乙ハ既ニ勧解出来スシテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勧解ヲナス共益ナシ徒ラニ時間ヲ費ヤスノミナリ

又訴訟中新ニ償ヲ申立タルトモ主タル訴訟ノ勧解又可カラサレハ其償ニ付勧解スルヿナキナリ

右訴訟ニ付保証人其訴ヘニ関スルヿアル共此亦勧解ヲ為サヽルナリ

故ニ一旦主タル訴訟ノ始メタル上ハ勧解セサルヿナリ

司法省

第四十八條　見合主タル訴訟ヲ為ス勧解スルヿナリ

サヽル前ハ必ス勧解ヲ為サヽルナリ

勧解ハ各自ヒトノ権利ヲ以テ其事物ヲ自由ニ取扱フヲ得ヘキ権アル人ニアラサレハ之ヲ為サヽルナリ

幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモノ等ノ其ノ事物ヲ自由ニ取扱フヲ得ス人ハ其ノ後見人管財人支配人等一々相談シテ乙許ヲ

受ケサレハ能ハサル故ナリ

若シ勧解ヲ為サントセハ右数人ヲ呼寄セサルヲ得ス然ル時ハ其数モ多ッシテ容易ナラス理ニ於テ當然ノコトニアラサルナリ

第四十九條ノ目ニアルモノハ総テ勧解ニ及ハスト雖モ政府縣邑ノ事件ニ付テハ政府縣邑ノ呼ハサレハ能ハス是又理ニ當ラサルコトナリ

自主ノ権ナキ者勧解ニ及ハサルハ勿論又其人ハ勧解スヘキトキト雖モ其事ヲ呼メ事和解ヲ為スヲ得ヘキ事ニアラサレハ勧解セス

司法省

タトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ナリト訴フルカ如キ是ナリ

又夫婦別居ノコトアレ共其時ハ縣裁判官ノコトニ等シク亦同シ

七ニ夫婦平ヒヲ勧解スルコトアレ共其時ハ縣裁判所ノ裁判官之ヲ為サヽルヲ得ス治安裁判官ニテハ之ヲ為サヽルナリ

右ノ道理ハ治安裁判官ハ威権モアリテ勧解モ能ク行届ケハナリ且治安

裁判官ハ夫ノ朋友ナドニテ多ク相押ル、ノ
嫌アリ其事柄例ニテハ鄭重ニナスユヘナリ
（民法離婚ヲ婦別居ヲ訴フル等茶ニ詳カナリ）
右ハ訴ヘタリトモ必ス其ノ訴ノ通リニスル
モノニアラス其條理ヲ篤ト裁判官ニテ兼知
セサレハ之ヲナサヽルナリ
離婚ハ重キーユヘ離婚ニナラサル様却テ治
安裁判官ニテ勧解シテ可然トノ説アレ共治
安裁判官ハ平日相通フユヘ軽シテ夫婦
互ニ感セサルノ意味ナリ

司法省

苦シ勧解ニテ不derive知ナレハ必ス別居セシメ
テ夫ヽ其家屋ヲ択ヒ又ヒ其給料ヲ子フルヿ
子アレハ其子ノ引受等マテノ手ヲ付ケサル
ヲ得ス此等ノヿハ治安裁判官ニテ之ヲ處置
スルノ権ナシ是亦縣裁判所ニテ勧解スル所
以ナリ
勧解スヘキ○勧解スヘキ人○主タル訴訟
此三件ニ限リ勧解スルナリ
然レトモ至急ノ場合又ハ事情ニヨリ勧解ニ及ハ
サルモノアリ

○高業ノ事　○家賃ノ事　○土地借賃ノ事　○利息ノ事ホナリ

又被告三人以上ノ時ハ勧解セス然レトモ之レニ反シ原告人多クシテ被告人一人ナレハ勧解ス

右ノ理ハ人情大抵拒ムヿアル故ニ被告人多数ナル時ハ必ス之ヲ拒ミ勧解トイヘカサルモノナリ

原告人ヨリ勧解ヲ願出ル時ハ既ニ一歩自ラ退キ相談スル情アル故被告人ハ必ス之ニ乗シ多人同腹ニテ申張ル故勧解セサルモノトス

司法省

タトヘハ外国人ヨリ我政府ニ向ヒ幾度ヿヲ願フ時ハ政府ニテハ成ル丈ケ給金ヲ賤シクシテ使ハントス外国人モ終ニ賤給ニ従フカ如シ四海兄弟ト雖モ此ニ至テハ奈ル所アリ

総テ願ヒ出ルモノハ損ナリ

此四十九條ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ七項ノ内二項ヲ取レリ

第一項　官府又ハ云々ハ無論勧解ニ及ハサルモノニテ此度ニ掲クルニ及ハス

第三項　主タル訴訟云々モ原ヨリ勧解ス可カラサルモノユヘ亦掲クルニ及ハス

第四項　商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲クルニ及ハス第二項ノ迅速ナル中ニ含有スルナリ

第一項ハ行政上ニ関スルヿニアラス民事ニ関スルヿナリ

第五第六項モ記スルニ及ハス年金養料ノ拂方等原ヨリ勧解ノ主来サルモノナリ

第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ已ニ廃シタリ

但シ刑事ノ裁判ノ費用ト罰金ヲ拂ハサルヿニ付テハ尚ホ禁錮アリ

右等ノ如ク佛国ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ故ニ之ヲ其儘日本ニ行フヿアル可カラス我國ノ害ヲ他国ニ及ホスナリ

仍テ此法ヲ立テタルノ宜シキヲ得ハルヲ云ナリ

又法律編輯ノ宜シキヲ得ハルヲ云ナリ

勧解ハ現地多ク行ハル、コナリ尤スレハ此
事ヲ如此云々ト治安裁判官ニテ証書ニ認メ
約定ヲ立サスルコトナリ
其約定ハ変改スル可カラサルモノナリ
又其勧解調ハサル時ハ其調書ノ謄ヲ受取リ
後訴訟ニ呼出ス時使丈ニ渡スナリ
治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十
四條ニ私ノ契約書ノカアリト書キタルハ甚
宜シカラス治安裁判官ノ書キタルモ公正ナ
ル故ニ万一詐偽アリテ他人ヨリ偽リナリト
訴フルマテハ正シキ證トスルモノナリ」公証
人ノ証書ハ何ヲ持出スヘ持出ストモ公正ノ証書ニ
テ通ルモノナリ治安裁判官ノ書キタルモノ
ハ裁判所ニ持出サレハ其効ナシ、

司法省

何故ニ公證人ノ証書ト治安裁判官ノ証書ト
右ノ如ク違ヒアリヤト云ハヽ此法律書ヲ作
ル時ハ国議院ニテ草案ヲ拵ヘタルモノナリ
其節ノ考ニ治安裁判官ノ書タルモノ一般公
正ノモノトスル時ハ勧解々々ト云ツテ皆ナ
治安裁判官ノ書付ヲモ至リ公証人ハ其

職ヲ曠フスルニ至ル故ニ治安裁判官ニ権ヲ
付ケサル為メニ如此ナシタリ
右ノ譯ハタトヘハ一万「フラン」ノ契約書ヲ
公証人ニ頼ム時ハ三百「フラン」ノ書賃アリ
之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一銭ノ貴ナシ是
其公証人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因
テ此ノ私ノ字ヲ下シテ暗ニ公証人ヲ助ケタ
ルモノナリ
故ニ公証人ノ書キタルモノハ其侭公正ノ書
トナリテ何地ニテモ行ハルヽトモ治安裁判
官ノ書キタルハ同シク公正ノ証書ニシテ一
應裁判所ニ出サヽレハ其用ヲナサス
公証人ノ証書ノ末文ニハ「オーノンデピユフ
ロヴラン ヒーレ」ノ文アリ
佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之ヲ日本ニ
テハ
天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正證書ノ
重キ所以ナリ
此以下再ヒ勧解ノ説ク
若シ両人ノ勧解届カサル時ハ其届カサ

ル旨ヲ呼出状ニ記載ス

勧解呼出ノ節欠席スルトモ治安裁判官ニテ

欠席裁判ヲ為スヿ能ハス唯欠席シタル旨ヲ

其治安裁判呼ノ呼出状ニ記入ス

然レトモ其欠席ノ被告ヘハ治安裁判官ニテ十

フランクノ罰金ヲ申渡スノ権アリ

其罰金ヲ納メルニハ八日ノ期限アリ

双方ノ中一方ノ者勧解ニ欠席シテ罰金ヲ拂

ハサル迄ハ縣裁判所ニ訴訟ヲ為スヿヲ許サ

ス第五十六條見合

原告人ニテ欠席スレハ十フランクヲ出シタ

ル上ニ非ラサレハ訴訟ヲナスヿヲ得ス又被告

人ニテ欠席シテ罰金ヲ拂ハサレハ欠席裁判

トナル

右拂フタル証ハ代書人ヲ雇ヒ得ルナリ

其他勧解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルニヘ拂フ

タルヿモ亦カルナリ

訴訟法會議筆記　七年五月十日

司法省

棚上○アルモノハ訴訟法原文

五月十日會議

第六十五條　其呼出狀ト共ニ勸解ヲ爲シ得サルヘキ事ノ調書ノ寫又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ記シタル書ノ寫ヲ送達スヘシ若シ之ヲ送達セサル時ハ其呼出狀ノ效力ナカルヘシ又呼出狀ト共ニ訴訟ヲ爲スノ憑據ヌル證書ノ全部又ハ一部ノ寫ヲ送ルヘシ但シ此等ノ寫ヲ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時原告人其寫ヲ送ルヘシト雖モ其寫ノ費用ヲ裁判費用中ニ加フヘカラス

許訟セントスルニハ先ツ必ラス勸解スヘキヿナリ勸解調フサキハ訴訟トナラスシテ濟ムナリ元來勸解スヘキヿト勸解ス可カラサルヿトハ別アリ勸解ノ調ハサルヿヲ書クニ及シタルヿアラハ其吉ヲ記書ニ認メ原告人ニ渡ス訴訟ノサキハ使吏其証書ヲ呼出狀ニ添ヘテ被告人ヲ呼出ス

其呼出狀ニハ勸解ヲ許シアルヿヲ書クニ及ハス又勸解ノ出來サルヿヲ記スルニ及ハス

勸解ニ及ハサルモノハ記シ置ストモ其事柄

ニテ分明ナル」ハナリ

勧解スヘキモノト雖モ急ナルモハ勧解ヲ受ケス其儘許ヘ出ルナリ其時ハ勧解ヲ受ケサルト雖モ其旨ヲ記入スル時ニ限リ其旨ヲ記入スルナリ

幼年ノ子。身分ノ人ハ。過日説キタルカ如シ。

至急ノ人ハ。勧解ヲ為サス。然レトモ裁判官ニ於テ至急ナラストト見込ム時ハ其呼出状ヲ効ナシトス。其時ハ被告人出ルトモ之ヲ帰ヘシテ更ニ勧解セシメルナリ

此時ニ當ツテハ其呼出ニ被告人出席セストモ雖モ元ト勧解ノ順序ヲ経サルニヨリ原告人ノ迎ナルユヘ其呼出状ノ費用ハ原告人之ヲ擔当スルナリ

其時迄ハ代書人ホタ手ヲ付クルナキニ付其費用ナキナリ

使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日二十「ファランク」ノ費用ヲ拂フナリ

原告人ハ被告人三人以上アリトシテ呼出タルキ其中ノ一人ハ訴訟ニ関セサルニアラン

ニハ被告人二人トナルユヘ勧解セシムルナリノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告人ニテ辨スルナリ

右ハ實地ニハ少ナキヿナレトモ決シテナシトセス

此一説ハ教師今考ヘ出ス所ト云フ

三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告人我カ志願ヲ怠クユヘワサト被告人ヲ増シ三人以上トシテ勧解ヲナサヽル等ノ弊アルユヘ之ヲ防ク為メニ此等ノ如ハ厳ニ其區別ヲ立テタルナリ若シ右ノ場合ニテ呼出状ヲ出シタリトモ其呼出状ハ効ナキモノトス

司法省

第六十一條ニ載スル訴訟モノヽ寫ヲ送ルヘシ

此書付ヲ添ヘ呼出スヿ原則ナレトモ若シ其寫ヲ添ヘストモ其呼出状ハ廃物トナルニアラス其書類ノ寫ハ後ヨリ裁判所ニ出スモ妨ケナケレ共費用ハ原告人ニテ之ヲ拂フナリ

前條呼出状ニハ訴援ヲ節畧シテ書載スルヿヲ云ヒ此條ニハ其寫ヲ添フルヿヲ云フナリ

第六十六條　使夫ハ総テ自己ノ宗系ノ血属又ハ姻属ノ親及ヒ其婦ノ宗系ノ血属又ト姻属ノ親ノ為メニ呼出状ヲ送達スヘカラス又其再従兄弟以上ナル自己ノ傍系ノ血属又ト姻属ノ親ノ為メ呼出状ヲ送達スヘカラス若シ此規則ニ背ク時ハ其呼出状ノ効ナカルヘシ」

使夫ハ誓ヲ立テタル官吏ナレ共親族等ノ嫌疑ヲ避サルヘカラス故ニ親族ノ為メニ呼出状ヲ取扱フヘカラス

タトヘハ親属原告人ニテ被告人ヘ呼出状ヲ送達セシムルニ使夫故ラニ之ヲ被告人ニ送達セス因テ欠席裁判トナリ遂ニ故障申立又ハ控訴ノ期限ヲ過キタル迫被告人ニテ知ラサル等ニテ大ニ其迷惑トナルトアルユヘ之ヲ禁ジタルナリ

此條中血属姻属ノ二ハ別ニ系図アリ此伐ハ別ニ説クヘシ

此條ニ利トナル方ヲ禁シテ害トナル方ヲ禁ヒス先其區別ヲ説カンニ其害ニナルハタトヘハ使夫ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其書

付モ其規則ニ合ハセス又取上ケモセス然ル
時ハ親族ノ為メヲ量リテ却テ害トナル何ト
ナレハ終ニソノ為メ親族ノ罪ヲ醸スノミ
ナラス自カラ罪ヲ得ルナリ故ニ之ヲ禁セサ
ルナリ又害トナル1ヲ云ハヽ使吏ノ如ク他
人ヨリカヽル訴訟アル時其呼出状ヲ父ヘハ
必ラス送達スヽシ
若シ之ヲ送達セサレハ欠席裁判トナリテ父
ノ負トナル故ニ必ラス送達スルナリ
故ニ親族ノ被告人トナルキハ禁セサルナリ畢

司法省

竟利ニナル方ハ之ヲ禁シ害ニナル方ハ差支
ナキユヘ之ヲ禁セス
自己ノ宗系血属トアリテ其永眷ヲ立テス上
ハ祖々宗々ニ至リ下ハ子々孫々マテヲ含ン
テ云ナリ
姻属ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ
通シテ云フ
上ノ自己ノ宗系ハ血属。又ハ姻属ノ親中ニハ
婦ノ宗系ニ血属ヲ含ム。下ノ姻属ノ親トハ。夫
ノ親属ニアラス。婦ノミノ姻属ナリ。トヘハ

一度嫁シタル婦ハ。男姑アルヘシ。右ヲ引取リタラハ自己ニハ関係ナシト雖モ。婦ニハ関係アリ

婦ノ離縁スルハ其姻属ニ関係ナシト雖モ其子ノ跡ニ残リタルトキハ関係アリ

一旦離縁スレハ。其縁断ユレモ。子アルトキハ。其縁断セス是其関係アル所以ナリ

其子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己ヘ呼出状ノ一ヲ頼ミタル時ハ直ニ拒クヿ能ハス愛情ヲ以テ取扱フ時ハ必ス私アル可シ故ニ之ヲ

禁スルナリ

若シ其子ナキ時ハ姻属ナシ使夫ニ於テ嫌ヒナシ」本文ヲ自己ノ、宗系血属又ハ、姻属宗系ノ親交ヒ、其婦姻属宗系ノ親（婦ノ前婚ノ親ヲ指ス）ト書ケハ夫婦双方ヲ兼子テ云フ

八分明ナリ

再従兄弟以上ハ夫婦双方ヲ兼子テ云フ

傍系ノ血属トハ伯叔父母以上ナリ姻属ノ親トハ傍系ニ就テ云フ

前文ニハ婦ノ姻属トアリ自己ノ傍系ノ血属云々ノ所ニハ婦ノ姻属ヲ説カス。婦ニ姻属ノ

親アリト雖モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前
婚ノ傍系ニハ嫌ナケレハナリ
子アルトモ子ノ伯叔ノ事ハ差支ナシ
再從兄弟ヲ六級ノ親屬ト云ヒ此再從兄弟ノ中
ニ異父母兄弟ヲ算入セス全ク同父母兄弟ヨ
リ成リタル者ノミヲ云フ然ラハ異父母兄弟
ニハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ノ
趣ナリ既ニ法律ニ禁セサルニ於テハ異父母
兄弟ノ為メニ送達スルトモ其効アルモノト
ス然レハ異父兄弟ハ婦ノ血屬即チ自己ノ姻

屬ノ親ヨリモ其情ニ於テ甚タ密ナリ嫌ナキ
能ハス此ニ之ヲ禁スルヲ補フヘシ

司法省

然レハ佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケスシテ送達ス
ルユトナキ為メ裁判呼ニテ別ニ其取締法ノ
設ケタリ
此等ノ如キハ裁判呼ニテ其罰ヲ加ヘ甚シキニ
至リテハ二ケ月ノ停職アリ又自分ノ為ニスル
ルートノ其ノ妻ノ為ニスルートハ又此條ニナ
キナリ元ヨリ自己ノ訴訟ヲ自カラ書クーハ
ナキ等ナレトモ法律ニ禁セサルニ於テハ差

支ナキカ如シト雖モ既ニ親族姻婦ノ為メニサヘ禁アルヿナレハ自ヒ之ハ勿論ナリ

若シ石等ノヿヲ為シタルキハ譴責ハ申スニ及ハス餘程重キヿニナルユヘ此條ニハ輕キヲ以テ見做シテ可ナリ

日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ為ニスルヿヲ第一ニ為ニスルヿヲ今明記ヘスヘシ

此等ノ法律ノ所欽ハ佛国ニテ改革スヘキニ婆々国乱アルヲ以テ其改革ニ遑ナク其修ニ

ニテアルナリ

国議院ニテ旧来ヨリ改正ノ議論アリ然ルニ千八百七十年ノ乱ニテ其ノ事終ニ廃シタリ其後巴里ノ変ニ国議院ノ草案等悉ク兵火ニ罹リタリ實ニ惜ムヘシ

司法省

第六十七條　使夫ハ呼出状ニ其謝金ノ高ヲ記入ス可シ若シ之ヲ記セサル時ハ後ニ其呼出状ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時ニ及フテ之ノ罰金ヲ出ス可シ

呼出状ノ價ヲ書クヘシ書カストテ其價ヲ取

ラサルニモアラス効ナキニモアラス唯五ノ
ランク」ノ罰金ヲ出スノミ此條ハ餘リ大切ナ
ル條ニアラス其謝金ヲ貪ホルヿ宿弊ナルニ
因テ之ヲ拒ン為メニ置キタルナレトモ別ニ謝
金目録表アリテ其價ヲ増減スル規則アレハ
此條終ニ無用ニ帰ス

第六十八條　呼出狀ハ被告人ニ之ヲ渡シ又ハ
其住所ニ之ヲ渡ス可シ然モ被告人ノ住所ニ
其被告人ヌヒニ其親族従者ノ外ニアラサル時
ハ使吏其呼出狀ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡シ近
隣ノ者其正本ニ其姓名ヲ手署スルヿヲ欲セサル時ハ使吏其副本ヲ其邑長
又ハ其輔佐役ニ渡シ此等ノ者謝金ヲ得スシ
テ正本ニ検印ヲ為ス可シ

使吏ハ其正本及ヒ副本ニ此等ノ諸事ヲ附記
ス可シ

此條已ニ前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セス

第六十九條　此以前召人民ヲ呼出スヿヲ解ク
此條以下ハ全ク別ナク第一項ヨリ第六項マ

テハ無形ノ人ト見做スナリ

第一　官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ呼出ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所ニ在ノ地ノ州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

官ハ無形ノ人ニテ其所有物アリテ被告人ニナルコトヲ説キタリ行政ノ事件ニ関シタルコトニアラス即チ官ヲ一人ト見做シ民事ノ裁判トナル

官ノ所有ニカヽルモノハ民事裁判

若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハ其害ヲ受タルモノヨリ訴出テ民事裁判トナル

司法省

又官ノ山林等ヲ買ヒタルニ間違アリ又ハ其土地家屋賃借ノコトニ付テノ訴ハ民事裁判

又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ国債アリ佛ニテモ又大国債アリ此等ハ人民一般ノ金ヲ借ルト同一ナリ此等ハ政府ト雖モ別ヲ立テス一般人民ト普ク做シ其訴ハ民事裁判トナル

以上皆民事裁判ニ属スルモノヲ云フ

以下行政ニ出ル公ヲ云ハン

政府ト人民ト関係ノ時政府ノ権ヲ以テ裁判セサル可カラサル事ハ行政裁判ニ帰ス

ヌトヽハ租税ノ事ニ付其出スヘキ高ハ行政官ニテ法律ヲ以テ定メタレトモ其各人民ニ取立ルヽハ各地方ノ行政ニテ定メルヽナリ

毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定メタトヘハ其高百万トスレハ之ヲ八十六縣ニ科シ一縣ニテ何程ト定メ尤州ニ貧富大小アレハ其相當ヲ以テ割合ヲ定メ州又之ヲ郡ニ割付又之ヲ邑ニ割付一邑ノ高ヲ定メ

ソレヨリ邑會議院之ヲ一人々々ニ割付ルナリ其人々割付ニ付テハ其者所持ノ土地廣狹産物宅地空地等ヲ表ニヨリ按査シ其科スル稅ナリ

司法省

石表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノ事アリテ餘ホニ稅ヲ拂フヿアル時之ヲ訴フル如キハ即チ行政裁判ニ帰スルナリ

日本ニテ六ハヽ

天皇陛下其高ヲ定ムルヨリ其各人ニ割付ルニ至ルマテ行政上ニテ取極ムルヲナレハナリ
此等ノ一ヲ告シ「民事裁判ニテ取揚ルハ」ンカリー」権限ノ争ヒトナル」
三世ナホレホン千八百五十二年ニ大統領トナルヤハ前主オーリアン」家ノ財産ヲ取揚ケンタリ此「オーリアン」家ノ財産ハ佛国ノ物ナリ然ルニ其「オーリアン」家ノ子孫ヨリ右ノ一ヲ布告直ニ為シテセライ度旨民事裁判ニテ訴ヘタリ之ヲ民事裁判ニ取揚ケタルヲ以テ巴里ノ縣令ヨリ故障申立タル故民事裁判ニテ之ヲ拒ムヤハ権限ノ争トナルニ付之ヲ行政裁判ニ帰シタリ然ルニ右ノ訴訟ハ布告ノ通リト裁判ニナリタリ「オーリアン」家ノ訴ハ効ナシトナレリ

司法省

昨年「ナホレヲン」三世ノ甥ナル者佛ニ「ラント」スルヲ警視廳ノ手ニテ留メタルニ付人民ノ権利ヲ妨ケタリトテ警視廳ニ對シ民事裁判所ヘ訴ヘタリ
此時ニハ民事裁判ニテ取揚ルハ権限ノ争ア

ラスレテ免職セラル、ヤハ何故ニ免職セラルヽヤ。

ルト見タル故ニ此許ヲ断ハリタリ其時ノ言ニ
一政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府ノ為メ
人民ノ保護セサルヘカラスト云テ其許ヲ取
上サルナリ
タトヘハ教育ノ官アリ不投ノ官ナラサレハ
場合ニヨリ免職セラルヽアリソノ場合ニヨ
リ不服ニハ故障ヲ許スルノ権アリ
ニ許ス
タトヘハ文部卿ハ自教師ヲ免職スルノ権アリ然
レ共自ラニハ故障ヲ許スルノ権アリ
ラル、ヤト許スルヿアリ此訴訟ハ行政裁判
。ラル、ヤト許スルヿアリ
自分奉職中休暇ヲ得テ日本ニ来リ居ルニ佛
ノ文部省ニテ免職スルキハ自分ニテ必ス之
ヲ行政裁判ニ許スルナリ

司法省

右権限ノ大主意大段二ツニ分カル官ノ公権
上ニ就テノ訴訟ハ行政裁判ナリ
官ノ私権上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナリ

許訟法會議筆記　五月十五日

司法省

棚上ニアルモノハ許訟法原文

第六十九條

官府ヲ其土地ノ事ニ管シタル訴訟ニ付キ呼出
ス時ハ其訴訟ヲ審判ス可キ裁判所所在ノ地ノ
州長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ
官ニハ心ス所有物アリソノ事ニ付テノ訴訟
ハ一般ノ法ニ循ヒ民事裁判ニ帰ス
官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在ノ
地ノ裁判官ノ権ニテ處分ス
石ノ場合ニ於テ官府原告ニテ人権ナルトキハ
被告人所在ノ裁判所ヘ訴フルナリ
若シ官府人権ノ訴ヲナスニ付被告人トナルトキハ何
レノ裁判所ヘ訴フヘキヤ法律上ニ云ハス
ト雖モ呼出状ヲ何レノ所ヘ送達スルトアリ
ニハ法律ニコレアリ
第一項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テノ訴訟
ハ州長又ハ州長ノ住所ヘ送達スルトアリ一
体官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理人
アリ故ニ此管理人ニテ此訴ヲ引請ク可キカ
如シト雖モ州長ハ一州ノ惣代ニシテ聰明ナ

ソ且其管轄地ノ支配權アルヲ以テ訴訟ヲ防
フニハ管理人ヨリ州長ハ委ニキユヘ州長ヲ
呼出スナリ
タトヘハ神奈川縣中ニ製鐵場マリ鑛山アリ
工部省ニ屬スルモノト雖モ工部省ハ惣テ製
鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニスル責ア
ルモノニシテ其土地ハ即チ政府ノモノナレ
ハ大藏省ノ管轄ナリ因テ工部省ヲ呼ト出タ
サスシテ縣令ヲ呼ト出スナリソノ時ハ縣令
ハ政府ノ名代人トナルナリ」

司法省

何故ニ縣令ヲ政府ノ名代ト為スヤト云ハヽ
大藏卿ハ全国ノ地ヲ管スルヿナレ𪜈一人ニ
テ自身一々之ヲ處接スルヿ能ハサルユヘ
ソノ地ノ情態ヲ熟知スル縣令ヲ以テ名代人
トナス
タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ訴訟
ヒキハ鑛山寮出張ノ官吏ヲ呼ト出スハ如
何ニ然ルニ縣令ヲ呼ト出スハ不相當ニ見ユレ𪜈否ラス尤モ事ニヨリ鑛山
寮ノ官吏自カラソノ規則ヲ侵シタル時ハ直

チニ察ノ官吏ヲ呼ヒ出スヿアレヒモ鑛業ニ干
人民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ
呼出スナリ元ヨリ察ノ官吏ハ土地ノヿニ付
テハソノ許ヲ防クノ權ナクシテ縣令ハ土地
所有ノ名代人ナレハナリ
縣令ハ政府ノ代人トハ云ヘヒモ今別スレハ即
チ大藏卿ノ代人トナル譯ナリ

第二項

官府會計局ヲ訴訟ノ事ニ付キ呼出ス時ハ其官
吏又ハ其官署ニ呼出狀ヲ送達ス可シ

司法省

右ハ人權ニ關スルヿニテタトヘハ會計官吏
ニテ人民ヨリ金ヲ借ルヿアリ右ニ付訴訟起
ル時ハ人民相互ノ訴訟ト同一ニ歸スル故リ
ノ會計局ニ呼出狀ヲ送達スルナリ其借金ハ
官ノ借用ニ相連ナケレヒモ官ノ公權ヲ以テ借
リタルニアラス畢竟會計局ノ私借ナリ故ニ
民事裁判トナルソノ時ハ大藏卿ヲ呼出スヿ
ナレヒモソノ名代ニ會計局ヲ呼ヒ出スナリ
又タトヘハ金ヲ拂ヘシトノ判決アルトキハ
官署ヘ預ケル如ク人民ヨリ
官署ヘ預ケルヿアリ尤モ利金モアルナリ此

等ノ一ニ付訴訟トナルトキハ人民ヨリ官署ヲ
相手取ルヲアリ
又政府ニ関スル新聞紙又ハ公證人等ハ保證
金ノ出シ置クニソノ業ヲ罷メルトキハソノ金
ヲ政府ヨリ返ス可キニ猶之ヲ返サヽルトキハ
訴トナルナリ
ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預リ人
ト云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シ
フ民事裁判所ニ訴フ凡政府ニテ公ケノ権ヲ
以テ取扱フタル金ニ於テハ民事裁判ノ権タト

タリ

タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出仕セサル等
ノ一ニテ月給ヲ引クトキソノ官吏ヨリ苦情
ヲ訴フルモノハ民事裁判ノ権ニアラス即チ
行政裁判ノ権ニアリ
又タトヘハ官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキ
ハ官府ノ権ニテ借ル理ナリ即チ國債等之
トナリテ人民ヨリ借ル軍器ヲ注文スルニソノ
レナリ
又タトヘハ陸軍ニテ

司法省

軍器ニ付テノ訴訟ハ行政裁判ノ権ナリ

ソノ旅ハ注文シタル省ノ卿自カラ其器械師ヲ呼ヒ出タシ且ツ自ラ裁判スルナリ

國債ニ付キ爭ノ起リタルトキハ即チ此本條ニ入ルナリ

左モ石場合ニ於テ爭ノ起ルコトハ絶テナシ近年ノ戦ニ國債證書ヲ失ヒタルモノ澤山アリソノ時ニ吏ニ證書ヲ請取ルコトヲ會計官ヘ乞フモノアリソノ節石ヲ取調ヘテ渡ス可キニ之レヲ拒ムキ之ヲ訴フ如キハ即チ民事裁判ニ入ル

タトヘハ陸軍卿ヨリ軍器ヲ注文シタルニ其器械遅延シテ未タ出来サル内ニ最早軍モ果タリ因テ其事ニ後レタルヲ以テ軍器ノ價ヲ引ケト云フ爭ノ起ルモノハ私事ニアラス公権ナリ故ニ行政裁判トナル

石ノ如ク軍器ノ粗悪又ハ出軍ノ跡等ニテソノ價ヲ渡サル時訴ノ起リタルトキハ民事裁判ニテソノ爭ヲ審理スルノ理ナシ即チ陸軍卿ニテ裁判ス

石人民ノ為メニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公
権ナルニ其用ヲ勤ムルモノソノ事ニ急ヲ成
ハ其物ヲ粗忽ニスルハ之レカ為メ不都合ヲ
生スルニ至リ政府人民ニ對シ其義務ヲ欠ク
所以ノ理ヨリ起ルモナリ

國債ヲナスニ於テソノ人民ヲシテ損害ヲ受
ケサラシメント欲スルカ為メニ政府ノ権ヲ
以テセス一般人民トナリテ借ルナリ
佛ニテモ行政ノコトニ付テハ自カラ注文シテ
ソノ爭ヲ起シテ自カラ之レヲ裁判スルハ不
都合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判
所ヲ置キ通常裁判官ノ如ク不抜ノ權ヲ與ヘ
タル裁判官ヲ設ケシトノ云ヲ説アレモ未タ行
ハレス

司法省

本文ニカヘリテ云フ
官吏ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クスルハ
少シク不相當ナルカ如キモノナレモ尤ニア
ラスユヘニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍器ヲ
同省ヘ納メ陸軍卿ノ捺印アル證書ヲ以テ金
ヲ請取ラントスルニ會計官吏ニテ金ナシト

云テ渡サヽルトキハ如何ス可キヤ即チ右ノ注文品ハ既ニ検査濟ニテ納マリタルモノナレハ即チ民事裁判トナルナリ

器械ノ美悪ト未ノ遅速トハ行政裁判ナリ

既ニソノ品ヲ受取リテ金ヲ渡サヽル時ニ至テハ民事裁判ナリ

此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキアレハ佛ニテ此條ヲ存スル間ハソノ立テ置ク処ノ理ヲ錐明セサル可カラス

第三項

司法省

官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ其本司官署ニ送達ス可シ

公ケノ建造物ヲ云フ病院狂院又ハ養育院貧屋等ノ如キ官ヨリ監察ヲナスモノアリ

官署ト云フモ公舎ト云フモ同シク公ケノ建造物ヲ云フ諸省ホノ如キハ此中ニハ入ラス

石ハ金ク人民ヨリ醵金ニテ出タルモノナレハ政府ヨリ監察ヲナスユヘ公ケノ建造物ト云フ寺ハ是ノ持チユヘ此内ニ入ラス

其建物ハ私有物ナレトモソノ支配ヲナスモノハ官ヨリ命スルナリ此公ノ字妥ナラスソノ附属ノ官員ノ月給ハ此建物ノ揚ヶ高ヨリ出ス

此建物ヲ建ルニモ開ルニモ政府ノ允許ナカルヘカラス尤モ地方官ニテ允許ス此會計モ官ニテ検査スルナリ

此本局ハ首府ニアリ支局ハ縣ニアリソノ時ハ本局ハ本局ノ地ニ支局ハ支局ノ地ニ呼ヒ出スナリ

第四項

司法省

皇帝ヲ其私領ノ事ニ付キ呼出ス時ハ裁判所管轄地内ニ在ル検事ニ其呼出状ヲ送達ス可シ

佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝ナリ今ハ大統領トナリタル大統領ニ對シテハ此條ハ用ヒス

古ヨリ言傳ヘニモ王ニ對シ訴ヲナスヿヲ得スト故ニ撿事ヲ呼出スナリ此訴訟法ヲ作リタルトキハ撿事ヲ王ノ名代ト立テタリ故ニ此ノ如シソノ後千八百三十二年ニ至ル迄ク

王ノ所有物ヲ管轄スル官吏出来タリ（民事録官吏ト評ス）其後ハ此官吏ヲ呼出スコトナリタリ

一体検事ヲ王ノ名代ト云フハ間違ヒナリ一般人民ノ名代ナリ

故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民事日録官吏ヲ呼出スコトヲ廃シ王ノ書付ヲ以テ其呼出物ヲ支配スル官吏ノ義ヲ呼出シソノ後千八百五十二年ニ至テモ同シ決シテ王ヲ呼ヒ出スコトナシ

千八百四十八年千八百七十二年トモ大統領ニ對シテノ法律ハ別ニ設ケサリシ

第五項　司法省

邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達シ已勅ニ於テハ州長又ハ其住所ニ之ヲ送達スヿ可シ

邑ノ一ヲ説ク前ニ先ッ説クヘアリ千八百六年許訟法ヲ編成スルマテハ縣ハ品土地ノ分界マテニテ縣ヲ無形ノ人ト見做スコトハ之レナシ故ニ縣ノ一ハ此ノ法律ニ載セサリシ今日ニ至リテハ縣ヲ無形ノ人ト見做スコトニナリタリ故ニ縣令ヲ呼出スコトニナリタリ

縣令ハ縣ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ
故ニ人民ヨリ政府ヲ相手取ルトキハ縣令ハ政
府ノ名代人トナル又縣ヨリ政府ヲ相手取ル
時ハ縣令一人ニテ縣ト政府トノ名代人トナ
ルヿ能ハス故ニ縣令ハ政府ノ名代トナリ縣
ノ名代人ハ縣會議院中ヨリ撰ミ出ス
右ノ名代人ヲ撰マサル間ハ縣會議院ノ長之
レヲ為ス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ訴アルトキハ邑長ヲ
テ邑ノ名代人トナル

邑ヨリ縣ヲ相手取ルトキハ縣令ハ縣ノ名代人
トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル縣ヨリ邑ヲ
相手取ルトキ亦同シ尤モ此例ニアラサルモノ
アリ「巴里」リヨンニ之レナリ

巴里ハ二十「アルロンヂスマン」アリ「マルロ
ンヂスマン」毎ニ長アリ右ノ如ク数人アルユ
ヘニ縣令ヲ相手取ルナリ「リヨン」モ「巴里」ト同
シキユヘ縣令ヲ相手取ルナリ

右ニ付テ少シク面倒ナルヿアル若シ縣ヨリ
巴里府ヲ相手取ルトキ縣令一人ニテ縣ト巴

里府トノ名代人トナルヿ出来サルナリ

巳里ノ規則ハ人民ヨリ巳里ヲ相手取ルトキハ縣令之レニ代ルソノ時ハ邑長ノ仕事モ一人ニテ兼ヌルヿアルカ

ソノ時ハ攅カアル方ニ依テ縣ノ名代人トナリ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ムナリ

千八百四十八年マテハ巳里ノ縣令ヲ称シテメールサンダラールト云フ今ハ否ラス

ソノ所以ハ縣令ハ巳里ノ邑會議院ニ上席セル「メール」中心邑長ノ義ト云フ

又別ニソノ上席人ヲ撰ムヿナリタリ故ニ其名ナシ

司法省

巳里ヲ此クノ如ク區分スルハ一人ノ「メール」ニテ廣キ首府ヲ惣轄スレハ人民ノ不便利ヲ生スナリタトヘハ婚姻死去ノ屆等ヲナスニモ遠隔ノ地マテ往来セサルヘカラス故ニ便利ノ爲メニ數區ニ分チタルナリ

訴訟法會議筆記　七年五月廿日

司法省

五月廿日會議

第六十九條　第五項ノ第二

此ノ箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取リタル者其正本ニ捺印スル時ハ治安裁判所ノ裁判役キ者其所ニ在ラスヌ又ハ其所ニ在リト雖モ捺印ヲ為スコヲ旨セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役又ハ初告裁判所捺事其捺印ヲ為シテ其呼出狀ノ副本ヲ受取ルヿ可シ

本條以上五項ハ総テ無形人ニ對スルモノヲ云フ石ハ人ニ對スル呼出ストキニ於テハ官吏ノ身ニ拘實ナラサルヿヲ急リ勝チナリ故ニ官吏ノ身ニ深ク忘レサル為メニ捺印セシムルナリ前ニ説キタル本人並一家不在ノ時近隣ニ送達シ捺印セシムルハ使吏ヲ疑フニハアラス請取ヲタルモノヽ等閑ニセサル為メナリ

司法省

民法ノ講議ニ於テ義務ノ生スル五根元ヲ説キタリ此條ハ五根元中契約ノ部ニ屬スル即チ代理ヲナスノ契約ナレハナリ

第一ハ縣令

第二ハ官吏
第三ハ公舎等ノ支配人
第四ハ皇帝ノ私有物支配
第五ハ邑長等

右等ハ惣テソノ職ニ任シタル部阮ニ代理ヲ為スノ契約ヲ生シタルモノトス

若シ右等ノ官吏ニテ請取ルヿヲ欲セス又ハ不在ノ時ハ治安裁判所ノ裁判官又ハ被告裁判所ノ掛事ニテ請取リ検印ヲナスナリ

其官吏等ニテ拒ムヿハ甚タ稀レナリ然レトモ

司法省

時ニヨリソノ呼出状ヲ見テ州邑等ノ官吏ニテ此レハ他ニカヽルヿニ付キ請取ラスト故障ヲ述ル時ハ使吏ニテハソノ當否ヲ弁別スルヿ能ハサルユヘ裁判官又ハ掛事ヘ渡スナリ

官ノ公權ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申付ルヿアリソノ事件ニ付呼出状ヲ會計局ノ官吏ヘ送達スルヿアリソノ省ノ長官ヲ呼出スヘシトキハ使吏ニテ呼出状ヲ送達スルヿ前ニ同シ

呼出状ヲ検事又ハ治安裁判官ニテ夫レ々々ヘ
送達シタル上ハ拒ムヿ能ハス故障アレハ裁
判所ヘ出テ述ヘサルヘカラス万一ソノ時ニ
モ日限中ニ裁判所ヘ出サレハ欠席裁判トナ
リテ邑長ナレハ一邑ノ責メヲ一身ニ受クル
ナリ

検事又ハ治安裁判官ヘ渡スト定メタルハ
使吏ノ使利ノ為メナリソノ送達ス可キ距離
ニ於テ分ントシレナリ
已里等ニテハ検事ノ方近シ何レニテモ其使
利ノ方ニ渡シテ然ルナリ

治安裁判官ニテハ必ラス請取ルナリ何トナ
レハ官禄アリ不按ノ権ナシ故ニ拒ムヿヲ得
サルノ情態アルナリ邑長ハ官禄ナシ故ニ自
由ニ議論スルヿヲ得ル

第六十九條　第六項

高社ヲ其社ヲ結ヒタル時間呼出ス時ハ其高社
ノ家ニ呼出状ヲ送達ス可シ又既ニ高社ヲ解キ
タル後ハ其社中ノ者又ハ其住所ニ之ヲ送達ス
可シ

商社モ亦無形人ナリ

商社ヲ結ヒソノ社ノ存在スル間ハ其商社ノ會所ニ送達ス可シ若シ定マリタル商社ノ會所ニ送達ス可キ時ハ其社中ノ人又ハ其人ノ住所ニ送達ス可シト云フコトキノコトハ書テ無之候ニ惣商社ヲ解キタルトキノコトナリ

會計ノ仕揚ケノ濟迄ハ即チ此條ニ循フナリ

商社ノ會所ノナキト云フコトヲ説カン

タトヘハ肥前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ラントス數人約束シテ運輸スルモノアリ肥前ニモソノ會所ナク東京ニモソノ會所ナシ依テ數人約束シテ商ヲナストキハ即チ其社ハ有ルナリ

商社ノ存續スル間ト云フコトヲ説カン

商社ヲ立ツルトハ社ノ為メニスルニアラス一般ノ人ノ為メニスルナリ然ルニソノ社ヲ解キタルトキ一人々々ヨリ勘定ヲ取ルニテハ甚タ債主ノ迷惑ナリ故ニ惣勘定ノ濟ムマテハ法律上ニ於テ其社ヲ解カサルモノト見做シテソノ社ヨリ勘定ヲ取ル様ニ定メタル

ナリ

右ノ譯ニ於テハ裁判ノ都合ノ爲メヨリハ人民ノ都合ノ爲メヲ重シスルナリ（民法五百二十九條ヲ參照スヘシ）

既ニ會社ヲ結ヒ銘々動産不動産ヲ差入レタルトキハ即チ會社ノ動産不動産ニテ一己ノモノニアラス故ニ其不動産ハ書入シテ一己ニ金ヲ借ル事ヲ得ス

會社ニ於テ民事高事ノ別アリ

高社ヲ結フニ既ニ其社ニ持込ミタル動産不動産ノ所有物ヲ持込ミタリトモ矢張リ各自ノモノナリ

民事高事全ク別ナリ高業會社ハ無形ノ人ト看做セトモ民事會社ハ無形ノ人トセス高社ニテハ持込ミタル財産ハ高社ノモノナリ唯ソノ分前金而已各自ノ利トナル

タトヘハ幼年ノモノ高社ニ入ルニ元來相當ノ裁判所ノ免許ナクシテハ幼年ノモノニテ不動産ヲ賣ルヿヲ得スト雖モ高社ニ入リタ

ル上ハッノ手数ヲ経スシテ賣ルナリ之レハ
高社ノモノニシテ且動産ト見做セハナリ
民事ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ル丁能ハ
ス有形ノ人ナレハナリ
會社ヘ入レサル財産ハタトヒ其社分散スル
丁アリトテ其分散中ニハ入ラス既ニ社ニ入
レタル丈ケノモノハ其分散中ニ入ルナリ
社ニモ種々アリ株金差入會社ニ於テハソノ
社ニ入レタル金丈ケニテ濟ム
有名會社ニ於テハ銘々ノ身代ノ有ル丈ケ分
散中ニ入ル
幼年ノモノハ高社ニ入ル權ナシト雖モ其父
ニ於テ既ニ社ニ入リテ後死去シタル時ハ其
子ッノ相續人トナルニ付テ社中ニ入リ居ル
ナリ元ヨリ幼年ニテ入社スルヿハ出来サル
サリ
高社ニ入ルニ銘々差入レタル動産不動産又
ハ其社ノ金ニテ買得ルモノハ皆其高社ノ所
有ナリ
ソノ義務ハ如何ナルモノト云フニハ動ク者

司法省

ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ分前金丈ケ
ナリ
法律上ニ於テ何故ニ民事ノ會社ト商業ノ會
社ト如此區別ヲ立テタルヤトイハヽソノ商
社ト取引スルモノニ於テ十分懲ナルモノト
シテ信用セシメタル為メニ立テタルモノ故社
タト銘々ノ儘シ金アル者ヨリ其社ヘ抵リ取ル
ヿハ出来サル為メニ為シタルナリ
然レハ民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社
ヲ解クトキハ其所有ノ権ハ全ク消滅スルナ
リ本條ニ基ツキ説ク

司法省

會社ノ存續スル迄トナスヽキハ銘々ソノ金ヲ
持チ去ルナリソレカ為メ社金ト私金ト混淆
シテ社ト引合ヲタルモノヽ迷惑トナル故ニ法
律上ニ於テ惣勘定ノ濟ム迄ハ會社ノ存續ス
ルモノト見做シテ其社ニ呼出状ヲ送達スル
ナリ
此事ニ付テ議論アリ前文ノ通リ會社ニ商事
ト民事トノ別アレハ今是レヲ行フニ商事ノ
方ニ從ハン欤民事ノ方ニ從ハン欤

民事ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ家
ハ誰ニ屬スルヤト云ヘハ其社中ノ各人ニ屬
スル乇モ出金高丈ケツヽ屬スルナリ
故ニ右會社ノ一人ニ於テ分散トナルトキハ
ソノ高丈ケ即チ各分散中ニ入ル
佛國ニ於テ民事ノ會社モ全ク商社ノ如クス
可シトノ論アレトモ立法官ニテ未タ其論ニ從
ハス
民事會社ノ不都合ナル一ハ社中ノ一人分散
シタルトキハソノ社中ノ關係トナリ迷惑ヲ
蒙ムルナリ委シキハ會社規則ヲ見可シ

司法省

古ヘハ社ヲ無形人ト看ナスヿヲ知ラス其民
事商事ノ社ハアリタレトモ惣テ有形人ヲ以テ
取扱ヒタリ然ルニ革命後稍ヤク商社ノミ無
形人トナスヿヲ論シ出シタリ
農業會社ニ於テ無形人トナサハソノ中ノ一
人借金スルニ土地ハ其社ノモノニテ動カス
ヿヲ得ス不都合ナルヘシトノ説アレ共無形
人ノ方都合ヨロシソノ人ノ爲メニハ尓前金
丈ケヲ自由ニシテ土地ハ動カスヿヲ得サラ

シムレハナリ

司法省

訴訟法會議筆記

明治十年五月廿五日

司法省

第六十九條第六項餘論

此第六項設立宜シカラス第一句誰レカ阿ク
ト云フナシ第二句ハ場所モ人モ分明ナレ
ト モ第一句ハ場所丈ケ有ツテソノ人ヲ云ハス
凡ソ會所ノ有ル寺社ニハ必ラス支配人ハ有
ルモノナリ故ニソノ支配人ニ渡ス可シト記
セサルヲ得スソノ會所ノナキハ銘々支配
人ナリ誰ニ渡シタリトモ苦シカラス前文ニ
誰レト人ヲ指シテ書サルハ書キ落シナリ故
ニ又ハ支配人ニト書入ヘシ

前ニ説キタル如ク使吏途中ニテ被告人ヘ逢
タルトキハ途中ニテ渡シテモヨロシト故ニ
支配人ニ途中ニテ渡シテモヨロシトス會所
ナレハ誰レニテモ渡シテ苦シカラス但シ支
配人ノ宅ヘハ送連スルヿヲ得ス

第六十九條第七項

家資ヲ散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時ハ其管
理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ

此第六第七ハ取ルヲ高人ニ係ルナリ故ニ付

少シク其分散ノ仕方ヲ訊セシ

分散トハ拂ヒノ心マリタリト云フ迄ニテ到底行キ盡キタリト云フニハアラスソノ譯ハ人ニ拂フ能ハサルトモ亦人ヨリ取ルモノナキトハ云可カラス

高人ニテハ高事ニカヽル義務モアレハ民事ニカヽル義務モアリ故ニ其拂ノ差支タル旨ヲ届出ルニ出入帳ノ如キ差引裁判所ニ属スル書類ヲ一切添テ出ス

萬一右高人ニテ石仕分ノ書類ヲ出サヽルキハ八債主ヨリ届出ツ其時ハ過失分散人トナリ罪ヲ得ル銘々勝手ニ分散人ト云フ能ハス

裁判所ニテソノ差引出入ヲ取調ヘタル上ニテ分散ノ形状アルキハ其方ハ分散ノ形状アリテ届出タル上痛分散人トソト言渡ナリ

右分散ノ形状アリテ届出タル上痛分散人トハ自カラ其賊産ヲ運用シテ可言渡サルヽ迫ハ自カラ其賊産ヲ運用スル能ハス

人ハ自カラ之ヲ運用スル能ハス

右ノ分ハ人ノ権利モ右ノ如ク違フ

ナリ届出タルヨリ言渡サヽル迄ハ凡テ主日位ナリ

監財人ハ分散人ノ為メノミニアラス債主ノ為メニモ設ケ在ルナリ

此監財人ハ分散人ト債主トノ間ニアリテ雙方ノ名代トナルヿアリ

分散言渡シノ濟ミタル上ニ三ツノ事アリソノ事ハ一二三トツヾクヿモアリ又一又ハ二又ハ二三又三ニテ濟ムヿモアリ

第一ノヿハ「コンコルダート」ト云ヒテ衆債主打寄リ相談ノ上約束トナルマテノ一事

石打寄相談ヲヽナスヿハ双方ノ為メニナルヿユヘニ望ムヿナリ

右「コンコルダート」ハ債主打寄約束ヲナス所以勸解ノ如キモノナリ

ソノ打寄ルトキニ分散人ニテ分散ニ至ル次第ヲ述フルニ財主ニテ分散人ニ於テ廉恥アルカ又ハ才能アルカ又ハ拂方人ヨリ得ヘキ金額ヨリ多クアルトキハ分散人ヲ引立ル相談ヲナス但シ前文ニ交シタルモノ等ノ節ハ

直チニ分散スルヿナリ

又自分不束ナルヿアリテ人ノ為メニ分散トナルヿアリタトヘハ甲ニ金ヲ借シ置クニ甲ヨリ乙ニ金ヲ借シ右乙ニテ分散トナル為ニ債主ニ分散トナルヿアリソノ時ハ債主ニテ甲ノ立行様ニ世話ヲナシテ遣ルヿアリ

分散トナルトキハ必ラス監賊人財産目録ヲ作ルヘシソノ人物ノ慥カナルモノナレハ監賊人ニテ衆債主ヘ對シ全額ノ二割ヲ拂ヒ其餘ハ年賦ニセントス云フトキ衆債主ニテ分散人ハ不人物ナリ故ニ半高ヲ取リ其半高ハ見

切ラントス云フヿモアリ

以上ハ分散人ヨリ品数ヲ申立ルニ監賊人ニテ債主ヘ對シ発言ヲナシテ品ハ何々有之此上負債ハ年賦ホニシテ本人ノ立行様ニシテ呉レヨト云フヿアリ

衆債主ニテ分散人ヨリ申立タルヿトク或ハ慾アリ又ハ強情ホニテ同意スルヿハ能ハサルヿアリ故ニ法律上ニテモ必ラス同意セヨトハナシタトヘハ債主二十人アラハ十一人